

こうとう民報

2016年9月号 142

江東区の職場・地域、議会などくらし・平和を守る運動をご紹介します。

発行 とうとう民報編集委員会
責任者 猪又 武夫
住所 江東区東陽2-3-5-203
電話3648-5155 FAX3648-5137
ホームページ
http://www.koto-minpo.jp/

【写真】豊洲新市場の地下空間を調査する都議団(右・あぜ上三和子都議)



共産党都議団の活躍

疑惑にまみれた築地市場の豊洲移転

日本共産党都議団は、都民の台所である築地市場を、発ガン物質で汚染された東京ガス豊洲工場跡地に移転



昨年4月、増え続ける児童に対応するために豊洲西小学校が開校しました。

それからわずか1年半で、同校の北側に16教室分の校舎を増設する計画が明らかになりました。

現在の校舎に隣接する土地に新たに1200戸のマンションが建設されることになったために、その収容対策から開

する石原知事の方針に当初から反対し、築地市場を改築するように主張して市場関係者たちと運動をすすめてきました。

しかし石原知事に次ぐ歴代知事の下でも、新市場の建設が強引にすすめられ、除染費用や建設費の高騰での入札におけるゼネコンとの癒着疑惑や「盛り土」での都民だましなど、多くの問題が都民の目から隠蔽されてきました。

小池新知事の移転延期の決定を機に、共産党都議団が豊洲新市場を調査した結果、主要な建物の下に大きな空間が発見され、そこに溜まった水からヒ素や六価クロムが検出されました。

地下の映像の提供や水質の検査、建設設計図の入手など、都政の間に迫る共産党都議団の抜群の調査力が注目を集めています。(写真は、共産党都議団提供)

発事業者から校舎を作る分だけ土地を提供してもらったといっています。

現状でも狭い校庭 運動会の応援も教室から

開校2年で校舎増築計画 問われる区の「まちづくり」

豊洲西小では、プールや体育館を地域開放型としたこと

などから校庭が大変狭く、トラックは1周120メートル、運動会を見に来た保護者は教

特別寄稿

日本共産党都議会議員

あぜ上三和子

都政これからは(下)

新知事に対して是非々々非々の立場で、都民の暮らしに寄り添った都政に



コンパクトな五輪に

小池知事は、都政改革対策本部を立ち上げ、東京五輪もテーマのひとつとしました。

私たち都議団は、これまでも東京五輪は都民とアスリートに優しいものにという立場で、繰り返し既存施設の活用

や会場整備の見直しを提案してきましたが、あらためて小池知事に対して、五輪費用の

削減と透明化にむけた提言をおこないました。

五輪開催経費は当初計画では、7千3百億円。ところが昨年から舛添知事(当時)は2〜3兆円かかるとし都の税金負担を拡大。すでに都負担はあきらかになつていただけでも当初計画の2倍以上、3千億円を超えています。しかも、都民の貴重な晴海の所有地は、選手村として整備するのですが、540億円もかけインフラ整備し、1mわずか約10万円で民間業者に売却するので

都民要求に応えて

都民の切実な要求は渦巻いています。私たち都議団は小池知事に対して、すでに「転落事故防止のための緊急対策とホームドアの設置促進についての申し入れ」や、「築地市場の11月豊洲移転計画の抜本的再検討を求める申し入れ」などおこなってまいりました。

豊洲新市場の施設や汚染対策の現状の調査にもついた資料をマスコミにも提供しました。

みなさんと共に、引き続き都民が主人公の都政実現に全力で頑張ります。

「まちづくり」は見直すべきです。将来を見越した「まちづくり」の計画を

民間のマンション開発などは公共施設の受け入れ可能な範囲内に規制して、子育てや教育、公園、商業など公共公益施設用地を優先的に確保し、さらに将来を見越した高齢者施設用地も確保するなど、「人が暮らしていけるまちづくり」に切り替えるべきです。

【訂正】

あぜ上都議の特別寄稿(上)の安心して...から11行目、「都市計画道路計画」を、「都市計画道路など」に訂正します。

潮騒

実りの秋を迎える東北・北海道に連続して襲来した台風は、死者も出る甚大な被害をもたらしました。01年以降、5884億円もの巨額な

血税を投入した豊洲市場への移転は、就任したばかりの小池知事の決断で延期されただけに、思わぬ方向に展開しています。そこでは、都当局の不当な制止を乗り越えて

実地調査した共産党都議団の先見的な役割が、連日のマスコミ報道によっても鮮明になっています。これを契機に、すべての税金のムダ遣いと利権がらみの公共事業の実態解明が求められます。9・19「戦争法」強行採決から1年。安倍政権は、稲田防衛相のもとで、戦争法で容認された集団的自衛権行使のために、11月に南スーダンに派遣される自衛隊員に、「駆けつけ警護」「治安維持」などの任務で予想される戦闘訓練を行って

います。若者が海外で「殺し」「殺される」ことは絶対に許さない決意で、「敬老の日」に老躯を抱えた仲間たちと国会前に座り込みました。沖縄では、東村、国頭村での米軍ヘリパッド建設工事用の重機搬入に座り込んで抗議する島民たちの頭上に、自衛隊ヘリを出勤させました。民意を踏みにじる暴政を阻止するため、10月23日の東京10区、福岡6区の衆院補選で、試されずみの野党共闘の威力が発揮されることが切実に期待されます。

概説 江東の歴史 (60)



「焼死した人たち」

江東の下町一帯は、1945(昭和20)年3月10日の大空襲で壊滅的な被害を受けました。僅か一夜で死者推定10万人、被災者100万人、未曾有の悲惨なものでした。江東地区では、死者8万余、広島、長崎の原爆被害に匹敵する大惨事でした。当時の大本営発表は「都内各地二火災ヲ生ジタルモ、宮内省主馬寮ハ2時35分、其ノ他ハ8時迄迄二鎮火セリ」というものでした。

9日夜半にB29、334機が上空に侵入した時、警報は出されず、深川に焼夷弾が降ってきたのが10日零時8分、空襲警報発令は7分後でした。「天皇の睡眠を妨げる」との理由が後にわかります。約2時間半の空襲で約20万発の焼夷弾が投下されました。

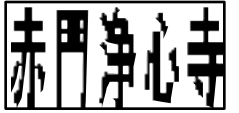
この空襲は、周辺に火の壁をつくり退路を断つという残忍な無差別絨毯爆撃で、火は風速20~30mの北風にあおられ、一瞬のうちに下町は火の海と化しました。

江東区内には、空襲の死者を悼む多くの石碑や地蔵尊があり、今も空襲の惨事を伝えています。区役所前の母子像「希(ねがい)」は区民の「空襲慰霊碑を作る会」の10年にも及ぶ署名運動や空襲展などでの訴えで、82年3月10日に建立されたものです。

江東区では、その後、新たに「核戦争を許さない江東平和宣言」を求める運動がくりひろげられた結果、86年12月12日、江東区議会は全員一致でこの宣言を採択し、13日「江東区平和都市宣言」を発表しました。これは、東京大空襲でもっとも大きな被害を受けた江東区民の「東京大空襲の惨禍を二度と繰り返すな」という決意のあらわれです。

(注) 空襲の実相は、早乙女勝元氏ら記録する会編「東京大空襲・戦災誌」5巻にまとめられ、都庁地区江東支部も「炎の街」「町は火の海」を刊行。71年以来、毎年3月には「東京大空襲を語り継ぐつどい」を、2002年3月に北砂1丁目に開設された東京大空襲・戦災資料センターとともに開催しています。

● 亀戸事件93周年追悼会 ● 歴史の逆行を許さず!!



追悼の挨拶をするあぜ上三和子都議

追悼の挨拶であぜ上三和子都議は、安倍政権の憲法改悪の動きに、参院選で史上始めて全国32の選挙区で市民と野党の共闘が実現し、11選挙区で議席を獲得したことを報告。歴史の逆行を許さない運動

1923年9月1日、関東地方を襲ったM7.9の大地震により死者・行方不明者12万余の大災害となった関東大震災。その混乱のさなかに時の政府は戒厳令を布告し「朝鮮人が井戸に毒を投げ入れた」などとデマを流し軍隊や警察、自警団の手で多数の朝鮮人、中国人が虐殺されました。また、被災者の救援活動をしていた川合義虎(日本共産青年同盟初代委員長)ら10、30代の青年運動や労働運動の活動家10名が、亀戸警察署に連行され軍隊の手によって虐殺された、近代史に拭いきれない汚点を残す権力犯罪です。その後日本帝国主義は中国への侵略を開始していきました。

9月4日、赤門浄心寺で「亀戸事件93周年追悼会」が開かれました。追悼会には、日本国民救済会、日本共産党、日本民主青年同盟などの諸団体・個人73名が参加しました。



撤回求め宣伝 当日は「江東区民の上空を2、3分に1機の飛行機が飛び、甚大な航空機騒音による生活環境の悪化や、重大事故が発生した際の被害など想像を絶する事態が生まれます」と危険性を訴えて「ご存知ですか?江東区上空を低空飛行!」のプラ配布と署名行動を1時間行いました。プラは220枚配布し、署名は78人の方から寄せられました。

8月28日、「江東区上空の低空飛行計画撤回を求める会」は東陽町西友前で宣伝活動を行いました。当日は「江東区民の上空を2、3分に1機の飛行機が飛び、甚大な航空機騒音による生活環境の悪化や、重大事故が発生した際の被害など想像を絶する事態が生まれます」と危険性を訴えて「ご存知ですか?江東区上空を低空飛行!」のプラ配布と署名行動を1時間行いました。プラは220枚配布し、署名は78人の方から寄せられました。

江東区上空を低空飛行!

8月28日、「江東区上空の低空飛行計画撤回を求める会」は東陽町西友前で宣伝活動を行いました。

東京都連合会の坂口忠男会長は開口一番、「どういう時期に大会が開かれるかを理解しよう」と呼びかけ、昨年来の戦争法反対の運動で世の中が大きく動き、「変化を自分の目で確かめられる時



坂口忠男会長の講演を聞く参加者

東京都連合会の坂口忠男会長は開口一番、「どういう時期に大会が開かれるかを理解しよう」と呼びかけ、昨年来の戦争法反対の運動で世の中が大きく動き、「変化を自分の目で確かめられる時

代」と実感している人が多いこと、8月に天皇は「深い反省」のメッセージを表明し、多くの高齢者も「自分たちの元気なうち

貧困が浮き彫りになる中、さらなる社会保障解体を狙う安倍政権について、坂口氏は「女子高生の間で流行っている『アベ過ぎ』とは、人の言うことを聞かず好きなことをやってしまいうること」

と会場を笑わせながら、「貧困と格差拡大の中で進められている社会保障と税の一体改革は、アメリカと一緒に競争する国へ進む道です」と強調しました。さらに坂口氏は、一人暮らしの老人は年金無しの例もあり、食費、光熱費を減らし、お風呂も減らす。人との交際を絶ち、葬式にもお金がなくて行かないとなると、誰も声をかけなくなり孤立していく。そして孤独死につながる。「幸せを願っても、それを阻む状況がある」と、孤独を打開して日常要求実現の活動を呼びかけました。

江東生活と健康を守る会が学習決起集会 全国大会を前に情勢を学び、貧困と格差打開の要求実現へ 江東生活と健康を守る会(佐藤巖会長)は、国民共同の運動で平和的生存権を守ることをスローガンに掲げた9月の全国大会方針を深く理解するため、8月26日に学習決起集会を開催しました。会場の区民センターには36人が参加しました。

- 行事日程
10月1日(土)11時、(ゆめ工房など)ゆめまつり
10月6日(木)13時15分、江東区職労第65回定期大会(総合区民センター2Fレクホール)
10月10日(祝)14時、江東上空の飛行計画撤回を求める学習会(江東区文化センター)
10月30日(日)10時30分、江東健康友の会深川支部第21回健康まつり(森ト文化センター)